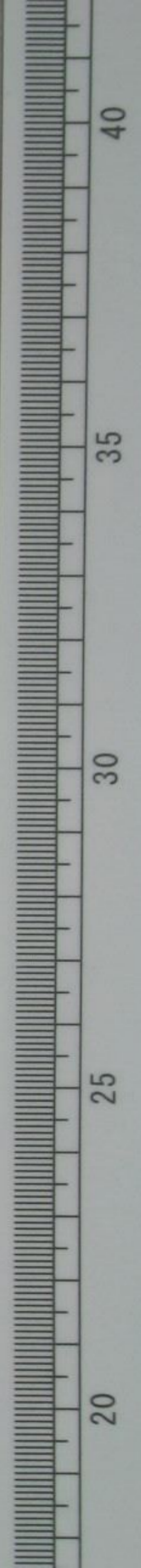


桂
百人一首
集

4
3623



明心
3623
卷



大正五年
室井平蔵氏
贈

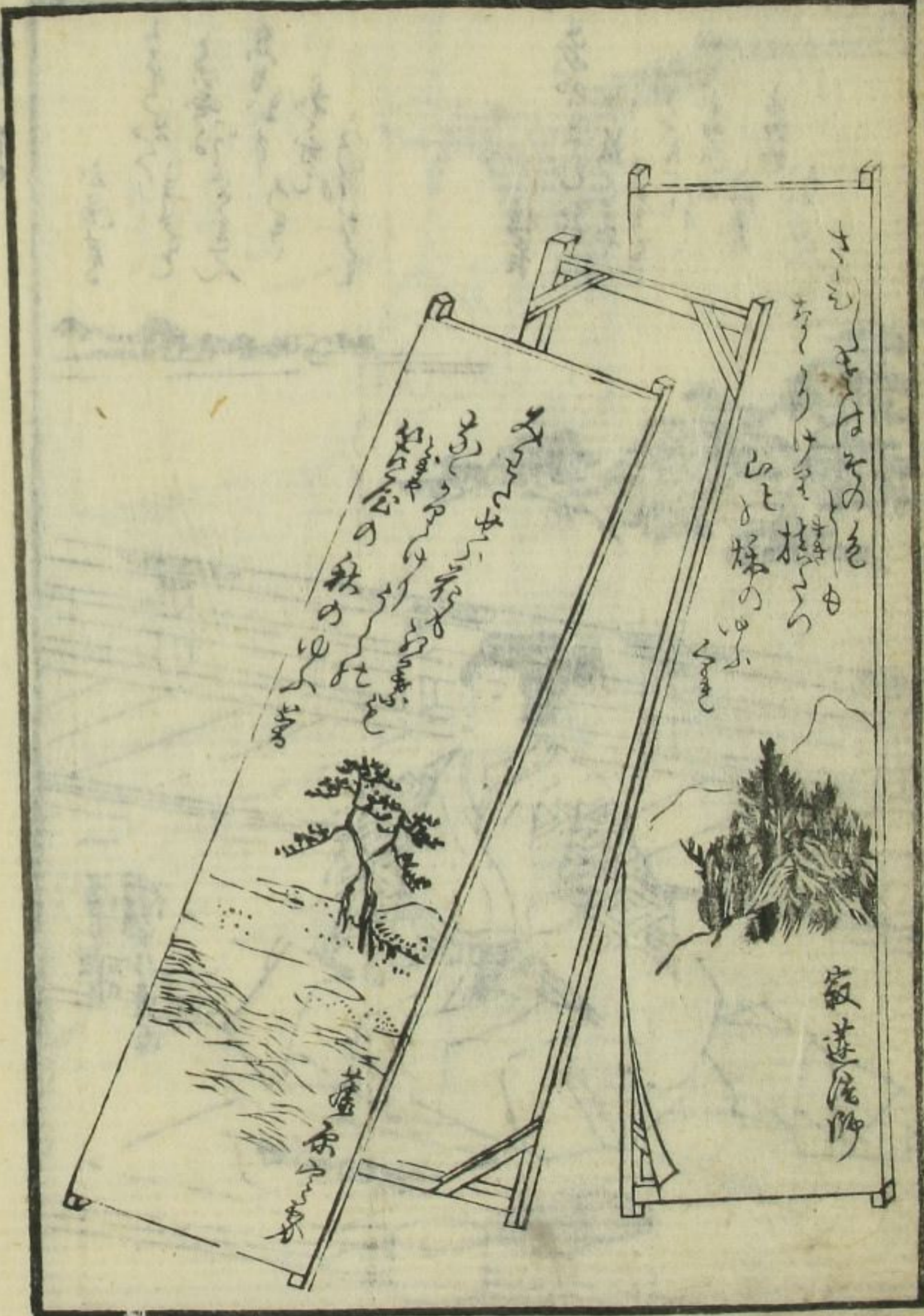
此の書は... (Handwritten text in cursive style, likely a preface or introduction to a book. The text is dense and difficult to transcribe fully due to the cursive script.)

嘉永二年... (Vertical text on the left side of the page, including the date '嘉永二年' and other characters.)

善... (Vertical text in the middle of the page, possibly a signature or a specific title.)

嘉永二年... (Vertical text on the right side of the page, continuing the date and other information.)



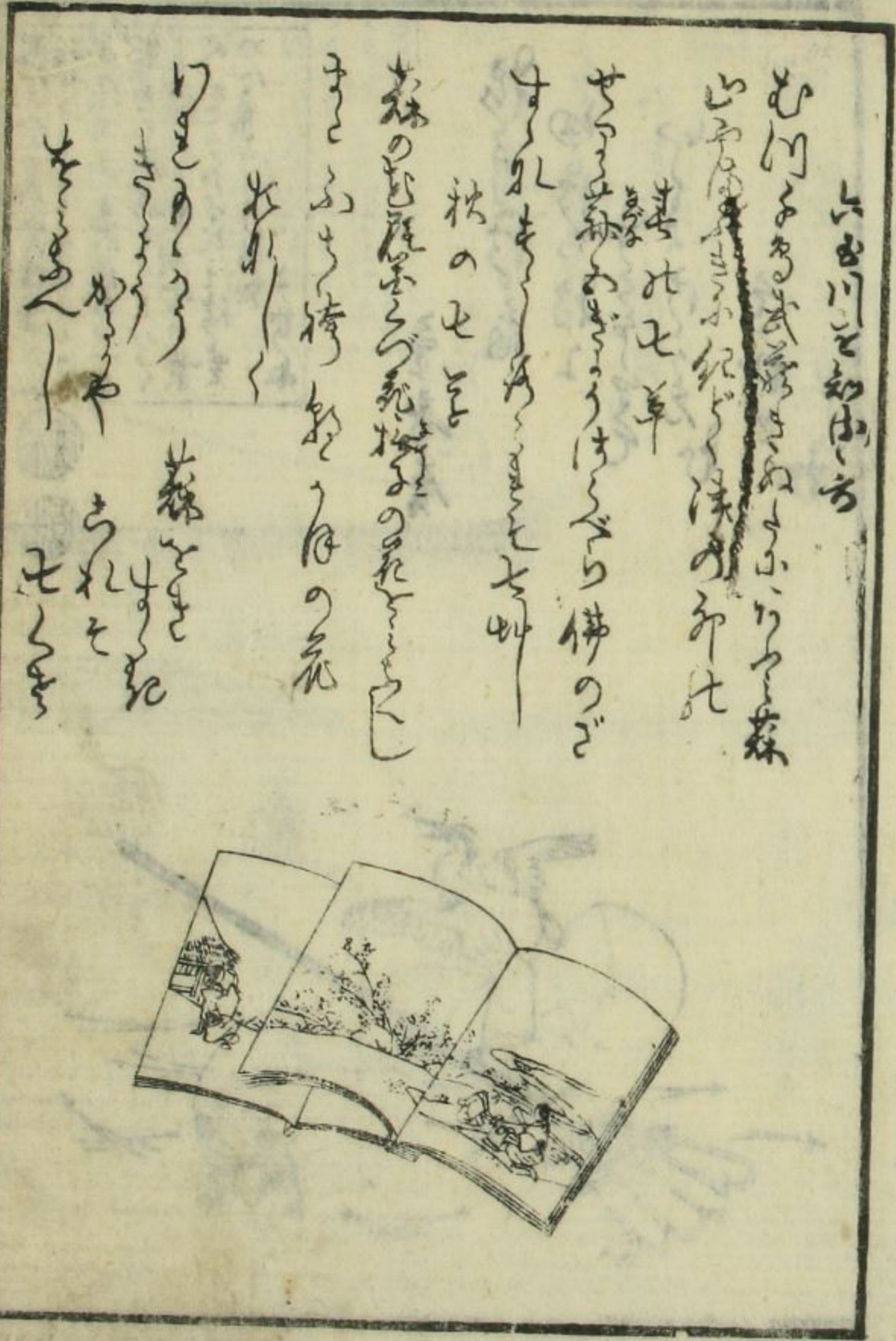


かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

敬送居師



かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

かみいしるはいいち

注 百人一首

新古今 持統天皇
夏上

天智天皇の二の御代
ゆくむまはくはみえ
あつた夜の曙のさくら
このつゆはくはみえ
積木のたわふらふらふ
ひまふらふ

まろい
かろい
しろい
ほろい
わろい
かろい



注 百人一首

新古今 持統天皇
夏上

あつた夜の曙のさくら
このつゆはくはみえ
積木のたわふらふらふ
ひまふらふ

持統天皇の御代
かろい
まろい
しろい
ほろい
わろい
かろい



田子の
 うらやま
 うらやまは
 白粉たりの
 うらやま
 うらやま

神皇天皇此人
 赤人の赤人
 官名かろろ見
 と今はあまの
 のみかろろの
 のみかろろの

百人一首
 山部の赤人



山部赤人
 百人一首

百人一首

猿九太郎

古
 秋上
 猿九太郎
 猿九太郎
 猿九太郎

あはれ
 かろろ



山部赤人
 百人一首

三三三入の...
 明の...
 此の...
 更...
 ら...

注
 百人一首
 古今
 安陪仲磨
 大に...
 ...
 ...
 ...



福

注
 百人一首
 新中納言家持
 延暦の...
 ...
 ...
 ...



福

注 百人一首

古今
雜下
喜撰法師

基泉まゝ寝仙と曰ふ昔の
人のまゝさあやふきも
人の世はじとていと我わ
平景城の翼かゝらぬは死
るもくすむねとて樂た
ゆるしむ方角とていふは

つらき處を
みぬこれ
あそそすむ
せはらむを
人もの
なり



一
喜撰法師

注 百人一首

古今
春下
小野小町

花のりあも

うはりのま

いづらに

あそそすむ

あそそすむ

文徳帝の代に近江の
野村の女にめづるは
阿の木の近江の女に
島小在の近江の女に
うはりのまに在のまに
あそそすむのまに



喜撰法師

庄
百人一首

後撰 雑 九



此の巻は...
 百人一首...
 後撰 雑 九
 此の巻は...
 百人一首...
 後撰 雑 九

同叙明位
七年京本

庄
百人一首

古今
新旅 参議 篁

正和十二年...
 是の流...
 此の巻は...
 百人一首...



つげ
海士
舟

わん
舟

一
舟

注
百人一首
古今
雜上

桓武帝の世孫 宣仁天皇の
一人之五葉と云ふ中 丑三
日の名媛 せせらるる女 天孫降
りて 天の天孫降りて 天の
天孫降りて 天の天孫降りて



此種
國華

六

注
百人一首
後撰
陽成院

鏡の鏡の二つ小筆の筆
そのかぎりありて 一滴の光
とまらぬののしるし
由物などいふ思入を
給ふかたのうらみ



一
國華

注 百人一首

古今別 中納言行平

元長五在の世の行平
よる路の父阿保親重
業承見而て因幡守に
任一赤毛高別を懸て
安んぬるゆへに
と松ふりてひかり



一
國書

注 百人一首

在 原業平朝臣

平城帝は源氏と行平
初もあつたのち
か初初異より
またあつたのち



一
國書

注
百人一首 古今

藤原敏行朝臣

昔のいれ

きり

よる

夢のかみひゆ

人先よらそ

あの人ほれとみうるの
君いそまもたう人めた
中ら入るをたう
あそ人まうて
あそ人まうて



古今
百人一首

注
百人一首

伊勢

あそ人まうて

あそ人まうて

あそ人まうて

あそ人まうて

あそ人まうて

仁孝の御孫
女に御孫を
表裏あそ人
あそ人まうて

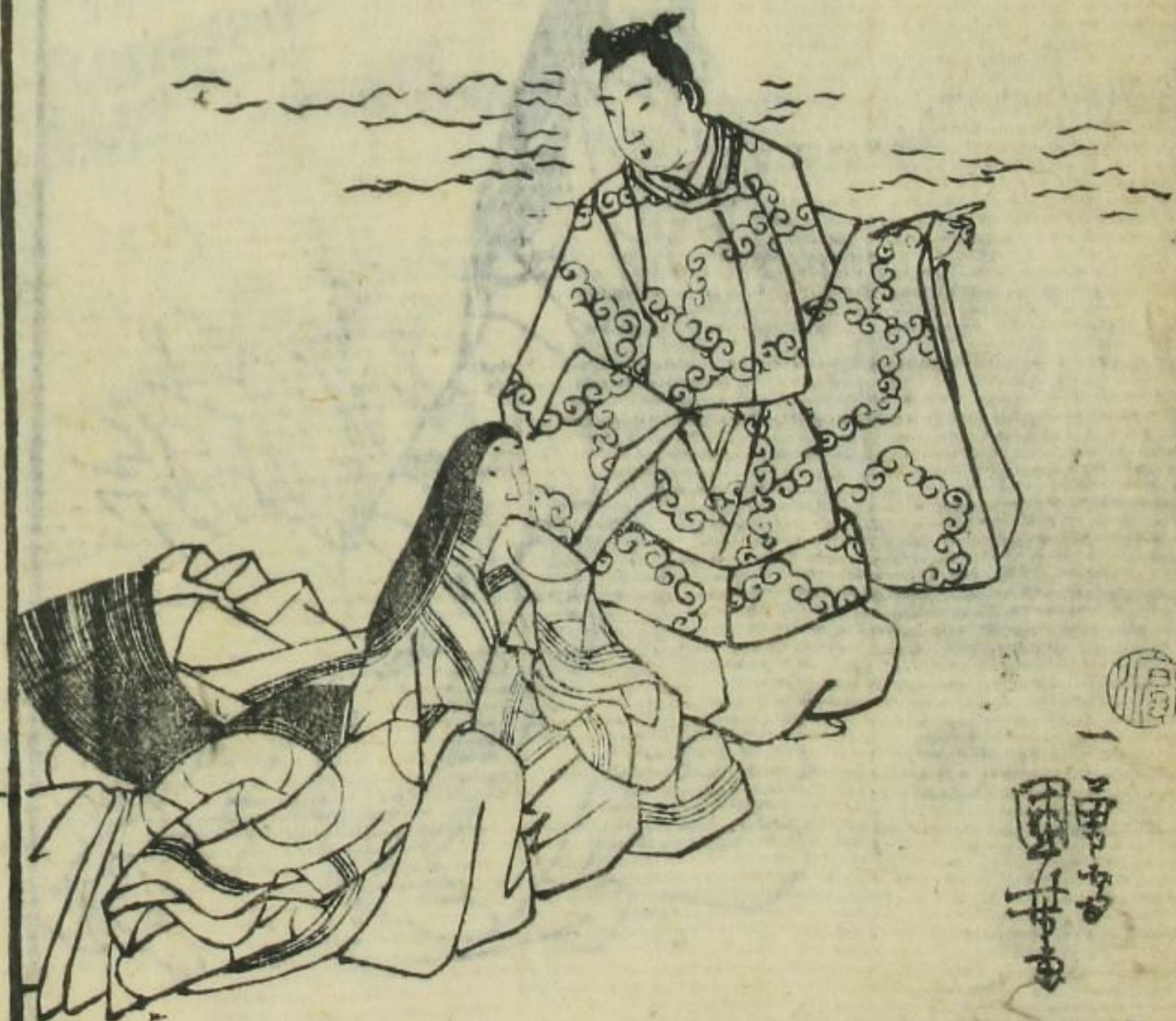
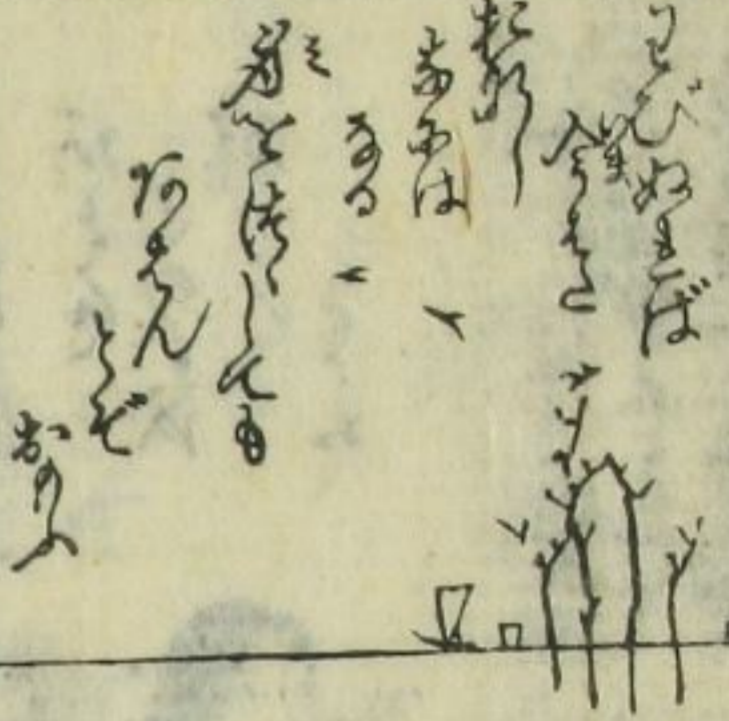


古今
百人一首

注 百人一首 後醍醐天皇

元良親王

陽成帝の御時、日比谷に
おたづねのまをり將之のまをり
を後醍醐天皇の御時
乃木水盛おさるる木あり
此方と云へり人の
と云ふるをん



一冊書
國書

百人一首之内

素性法師

今あんとりひ
なつりふ
秋の月を
待てる

父の御時、晩在信の御時
なつりふと云ふるは、秋の月を
待てるを、安閑なる事あり
と云ふるは、秋の月を待てる
こと、秋の月を待てること、
百人一首之内



鹿野
豊國

百人一首之内

文徳

吹く不秋の
葉もこれ
むらさき
ありと
あはれ

これこそ秋の
葉もこれ
むらさき
ありと
あはれ
あはれ



豊國

十二

百人一首之内

大徳

月影
物もこれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ



豊國

百人一首之内

菅家

はなむら

あやむら

あやむら

神のま

米津の...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...



一陽軒
豊國馬

百人一首之内

三條なる

あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...



あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...
あやむら...

百人一首之内

貞信公

新羅の武王 天并川の御
末の之 幸 魂 ありぬ
死 忍 び ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
世 々 々 々 々 々 々 々 々
平 平 平 平 平 平 平 平
美 美 美 美 美 美 美 美

小倉山
あはれり
今一
みゆ丸
まごあん



豊岡志

百人一首之内

中継言系補

父 父 父 父 父 父 父 父
山 山 山 山 山 山 山 山
又 又 又 又 又 又 又 又
と と と と と と と と

みゆ丸
あはれり
今一
みゆ丸
まごあん



豊岡志

百人一首之内
 深家手紙

山黒川
 深家
 人あも
 かしら
 とぞ

父の
 武の
 人
 深家



香葉楼
 豊国也

百人一首之内
 九河白菊

九河
 白菊
 花
 豊国也

花
 白菊
 豊国也



一湯齋
 豊国也

百人一首之内

百人一首之内

主上の氏名を記す
名前の氏名を記す
のてしは記す
これのてしは記す
たすは記す
たすは記す

百人一首之内

百人一首之内

あつた
あつた
あつた
あつた



豊国

百人一首之内

百人一首之内

百人一首之内
百人一首之内
百人一首之内
百人一首之内

百人一首之内

百人一首之内

百人一首之内

百人一首之内
百人一首之内
百人一首之内



豊国

百人一首之内
春道列樹

志望の心誠をよめる
い氏おわの村若しとるふ
なをた流るるもうふ
藤原のまきり川あり
ゆられまわれまわれ
るのあふりてあふり

かきつゆの

かきつゆ

かきつゆ

かきつゆ

かきつゆ

かきつゆ



豊国

百人一首之内

紀友則

藤原のたのむをえとるふ
い氏おわの村若しとるふ
なをた流るるもうふ
藤原のまきり川あり
ゆられまわれまわれ
るのあふりてあふり

久のころ

かきつゆ

かきつゆ

かきつゆ

かきつゆ

かきつゆ



香蝶楼

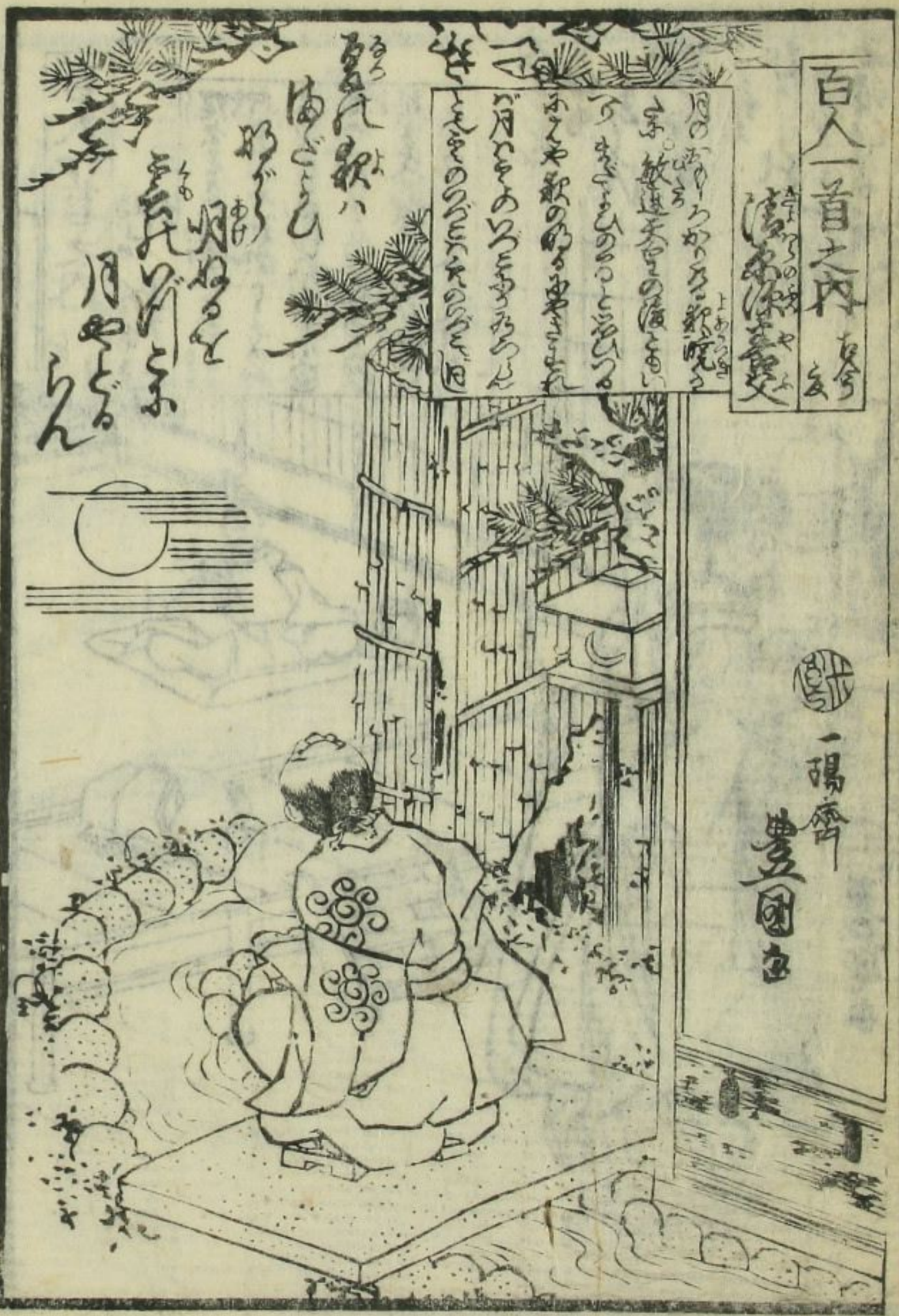
豊国



百人一首之内

漢文

月夜の静けさ
秋の風が吹く
松の葉が
ささやく



一場齋

豊国

百人一首之内

漢文

白鳥の
風の吹く
秋の夜
静けさ

秋の夜は静か
白鳥の鳴き声
風が吹く
松の葉が
ささやく



一場齋

豊国

百人一首之内 花送
平兼盛

あつがせと

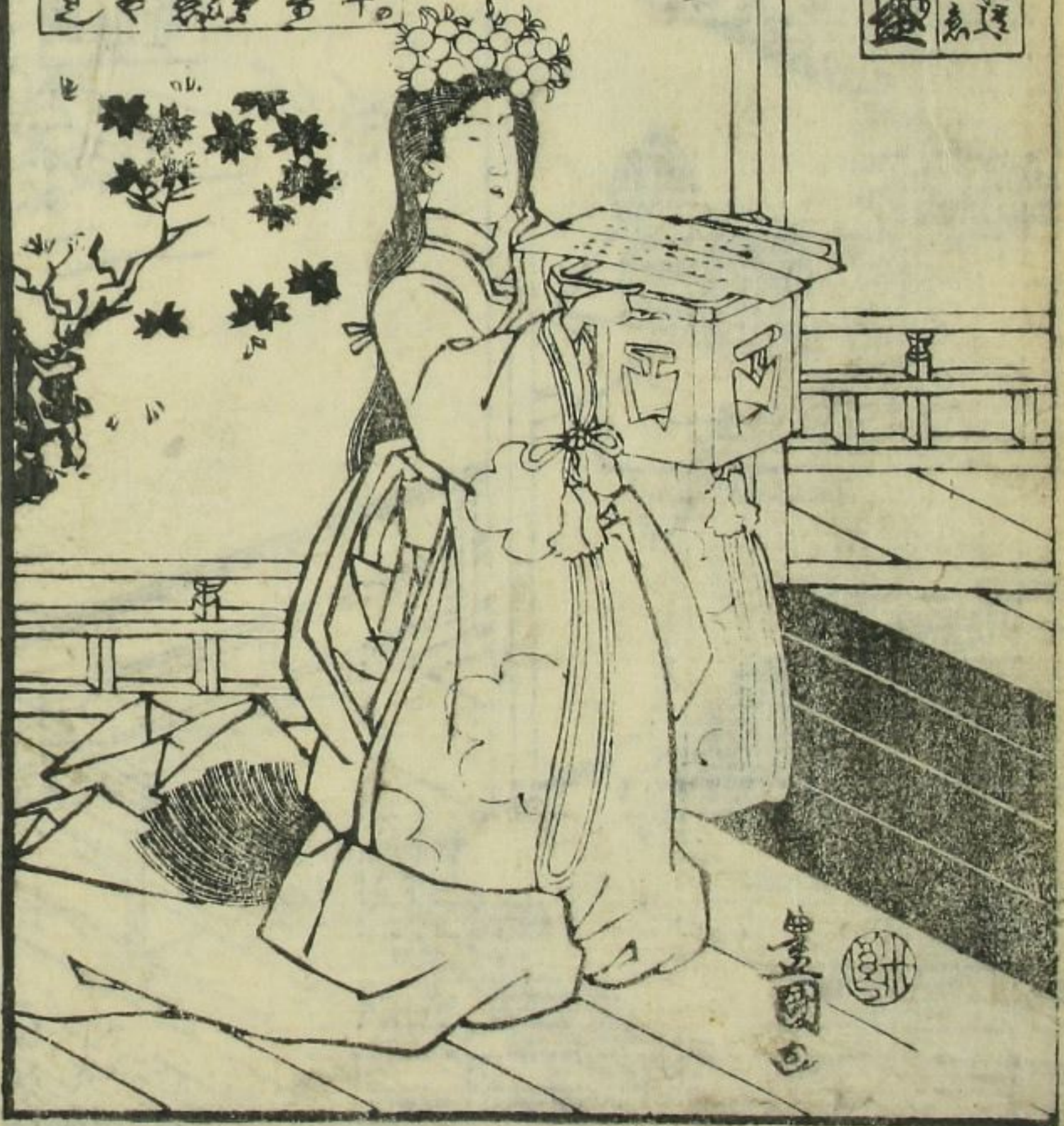
あつがせと

あつがせと

あつがせと

あつがせと

天曆...
馬...
大...
...

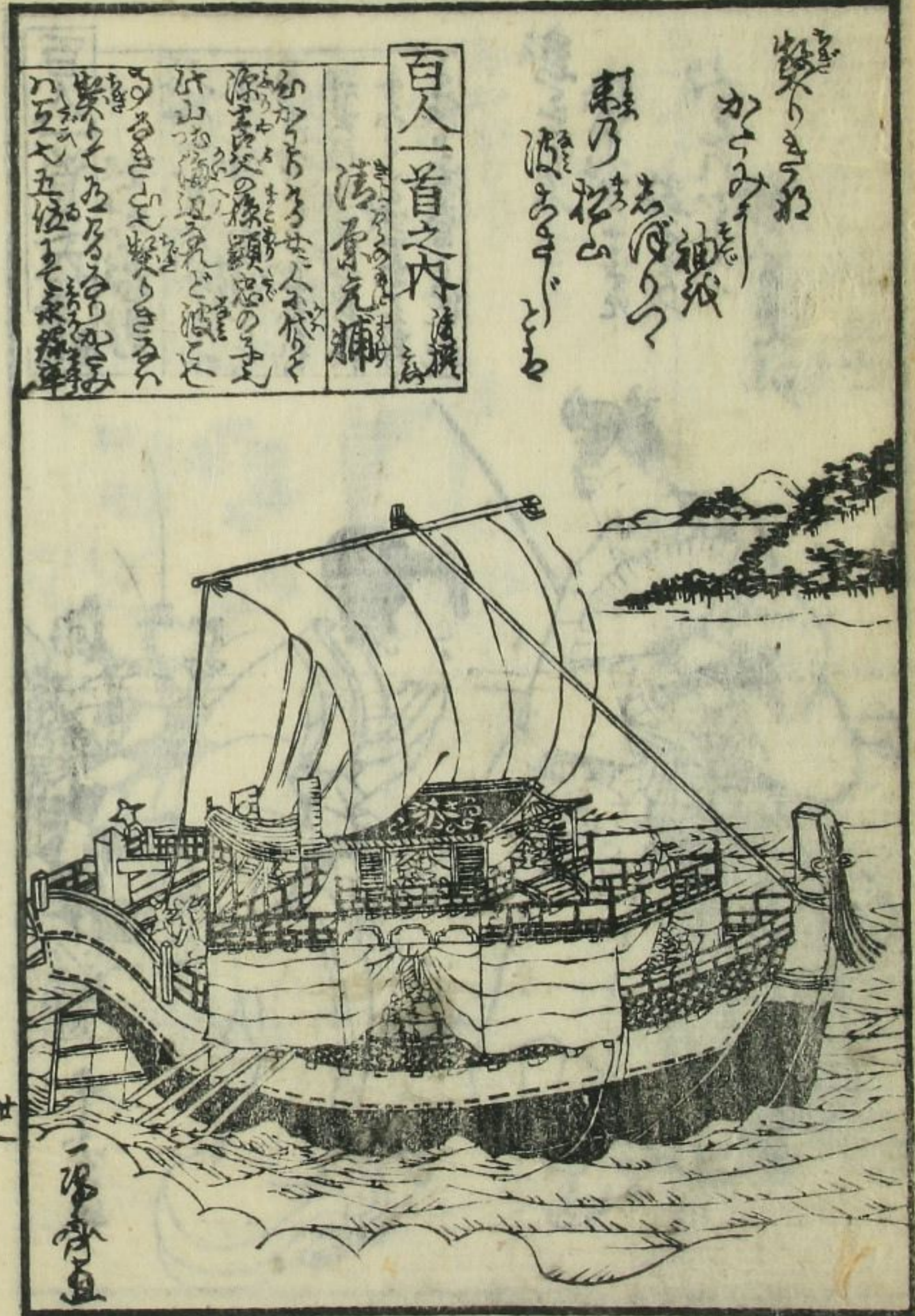


百人一首之内 花送
壬生忠見

天曆...
...

あつがせと
あつがせと
あつがせと
あつがせと
あつがせと





百人一首之内

源重之
此は東宮と
なる時百首の
とよめる
父の二世
人のつれ
とよめる



大田
十四

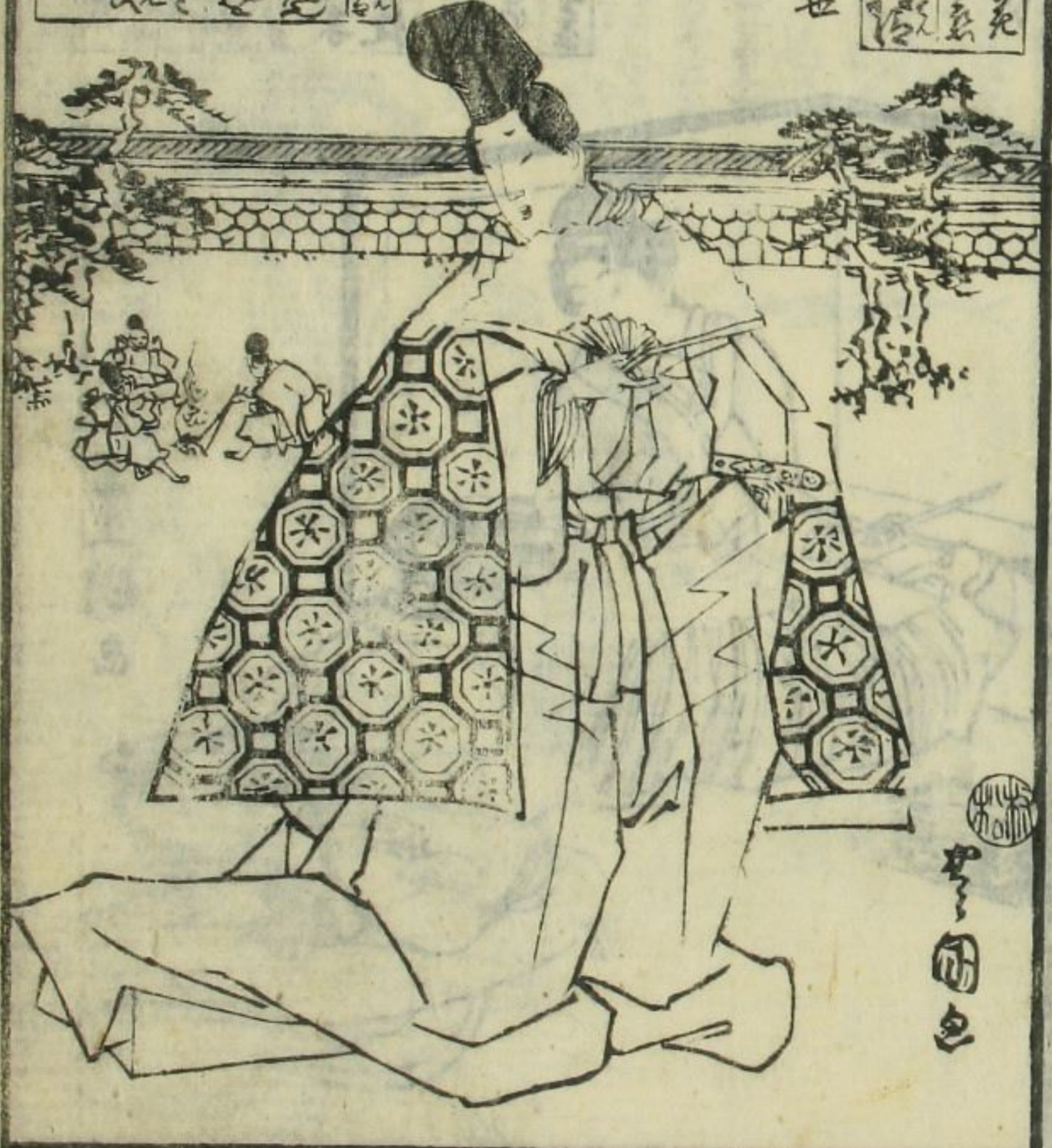
百人一首之内

大田
藤原録足公初也

源重之

源重之
父の二世
人のつれ
とよめる

父の二世
人のつれ
とよめる
中宮と
なる時
百首の
とよめる



大田
十四

百人一首之内

法橋

春のあけ

春女ののりより海へつる
けんとく
つる 藤原公の海子
天遊の人右近が将佐
み位下也
上のおねねはみねねとのか
下は誠也とまへたふかま

まこと

うら

命たま

あひそ

申五国也



百人一首之内

法橋

春のあけ

春女ののりより海へつる
けんとく
つる 藤原公の海子
天遊の人右近が将佐
み位下也
上のおねねはみねねとのか
下は誠也とまへたふかま

百人一首之内

あひそ

あひそ

あひそ



申五国也

百人一首之内

後同二司母

中美白幼隆あひそわ
 了じさう 傳信司公の
 父の中美白也母の伝信
 貴子ん 初より末まで
 のさめりこかたあまが
 夢の目命あつたこと

わかれ乃
 初系すまひ
 かこらまごら
 命さる



中五回

百人一首之内

終る乃
 ありぬれ
 ありぬれ
 ありぬれ
 ありぬれ

百人一首之内

大御言

大御言
 大御言
 大御言
 大御言
 大御言



中五回

百人一首之内

和泉式部

あはれをいづるは人の
降きける又人の世に
上まつ院の御方
高きけれは今一
なるが美事なり
せんものと云ふ人

河原の
はせの
男の
今
あはれ

初嫁和泉守貞道法俱
丹波守保昌住丹波



丹波守保昌

豊国

百人一首之内

紫式部

あはれをいづるは人の
降きける又人の世に
上まつ院の御方
高きけれは今一
なるが美事なり
せんものと云ふ人

あはれをいづる
みや
その
あはれ



仕上東門院
源氏之作者
中納言兼
権之丞

紫式部

有りては
 格名の
 風物
 りてよ人を
 する

百人一首之内
 大貳三位

此の世の世に
 言ふは母の
 言ふは母の
 言ふは母の
 言ふは母の

後一條院御乳母
 故叙三位
 大貳成章妻

夢田

廿九



百人一首之内
 大貳三位

此の世の世に
 言ふは母の
 言ふは母の
 言ふは母の
 言ふは母の

有りては
 格名の
 風物
 りてよ人を
 する



夢田



百人一首之内

烟苑

一條院の所付好まぬを
 一人のきこひおきく
 小納のしれはまゝとて歌
 ありと傳へられぬ
 昔は新修の歌に
 されしは忘れぬ

百人一首之内
 煙苑
 一條院の所付好まぬを
 一人のきこひおきく
 小納のしれはまゝとて歌
 ありと傳へられぬ
 昔は新修の歌に
 されしは忘れぬ



百人一首之内

今象

丹波のゆきゆき
 さくらんぼの
 丹波のゆきゆき
 さくらんぼの
 丹波のゆきゆき
 さくらんぼの

在丹後國寺佐郡大崎
 長二百九十九丈
 廣九丈二尺
 是天橋立云

申之通也

百人一首之内

清原元補子護史記
清原元補の無常看本
て殺さるるを恨み
て多羊を食ひて秋深
く涼風をしのぎて
てあつちのあつちを
のあつちを



皇國文

百人一首之内

清原元補の無常看本
て殺さるるを恨み
て多羊を食ひて秋深
く涼風をしのぎて
てあつちのあつちを
のあつちを



皇國文

百人一首之内 後拾遺
良暹法師

さびしき
家
こころ
涙
いばら
秋の
夕ぐれ

又祖未洋海め、悲風
はゆるさる物の打も、
さつはは長國の
あはれ、
はるかに住め、
能因、
能因、
能因、

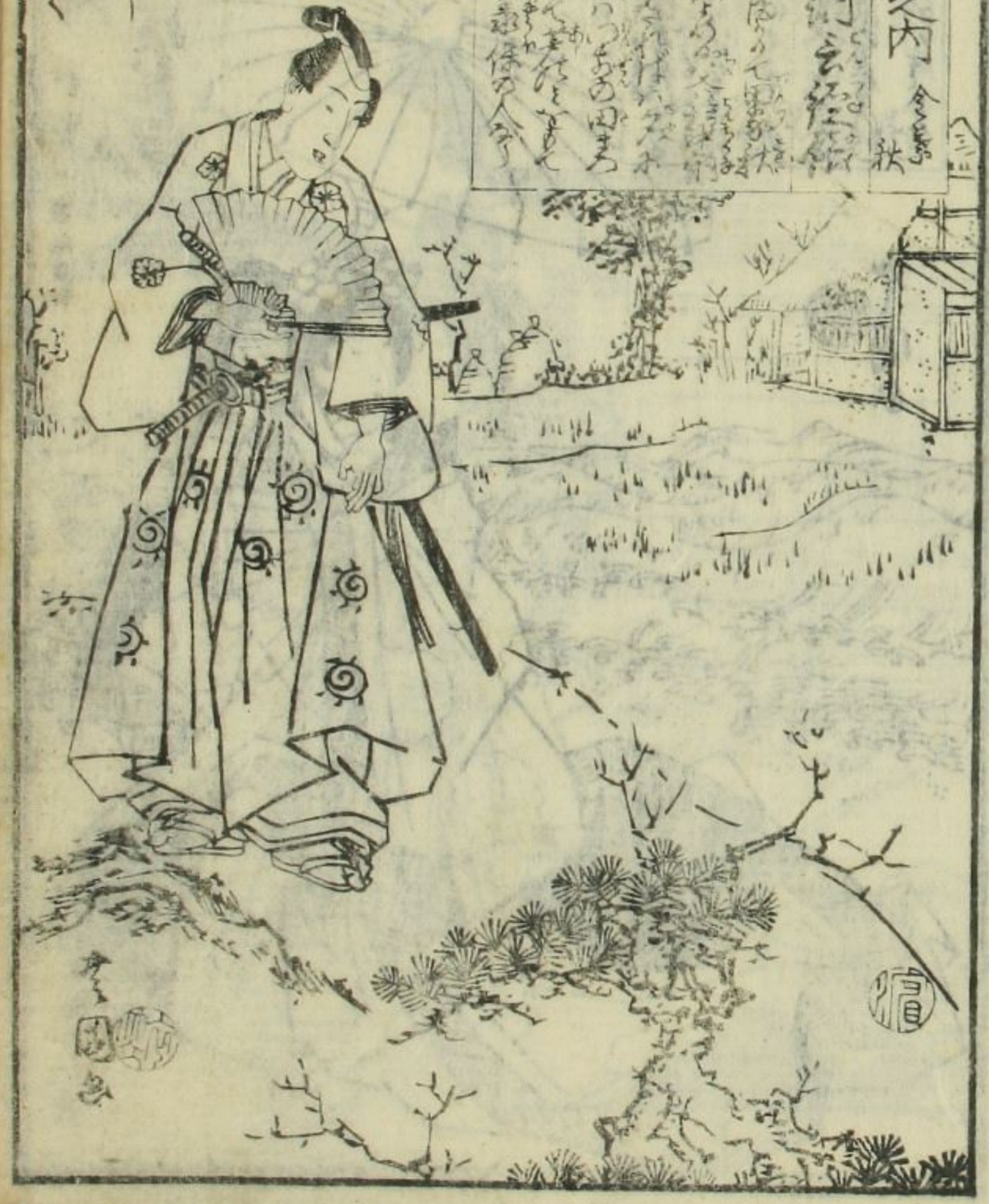


才、
因、
三十五

百人一首之内 金馬
秋

百人一首之内
金馬
秋
あはれ、
はるかに住め、
能因、
能因、
能因、

あはれ、
はるかに住め、
能因、
能因、
能因、



才、
因、
三十五



百人一首之内 冬

源 兼 忠

雪のふりしるは
ふもとの色を
みれば 雪のふりしるは
ふもとの色を
みれば 雪のふりしるは
ふもとの色を
みれば

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ



源 兼 忠

三十九

百人一首之内

源 兼 忠

雪のふりしるは
ふもとの色を
みれば 雪のふりしるは
ふもとの色を
みれば 雪のふりしるは
ふもとの色を
みれば

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ



源 兼 忠

百人一首之内 千載

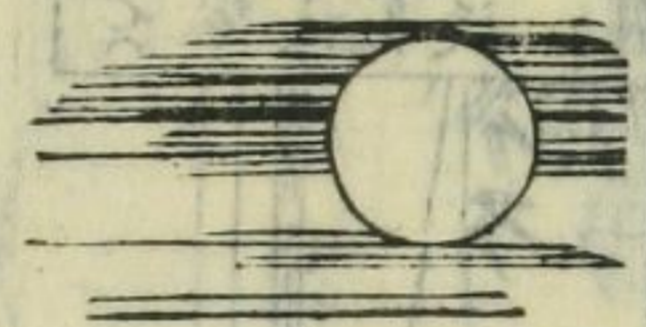
長く
こころ
あはれ
みづか
その
あはれ

百人一首之内
千載
百人一首之内
千載



百人一首之内
千載
百人一首之内
千載

百人一首之内
千載



百人一首之内 千載

百人一首之内 千載

百人一首之内 千載

百人一首之内 千載

道因法師

おのひ

命き

あつちの飯

潤也

人此のまかささひみひの
あつちの飯を食ふと
あつちの飯を食ふと
あつちの飯を食ふと
あつちの飯を食ふと
あつちの飯を食ふと
あつちの飯を食ふと
あつちの飯を食ふと
あつちの飯を食ふと
あつちの飯を食ふと



は懐かき昔のまはるる
あつちの飯を食ふと
あつちの飯を食ふと
あつちの飯を食ふと
あつちの飯を食ふと
あつちの飯を食ふと
あつちの飯を食ふと
あつちの飯を食ふと
あつちの飯を食ふと
あつちの飯を食ふと

百人一首之内 千載
皇太后御成

おのひ
命き
あつちの飯
潤也



百人一首之内 十載

絶妙法師

おきき
月や
おのほ
おのほ
おのほ
おのほ
おのほ

月のお表と心の心かきめり
父を左のたまはるはるはるはる
おのほおのほおのほおのほ
おのほおのほおのほおのほ
おのほおのほおのほおのほ
おのほおのほおのほおのほ
おのほおのほおのほおのほ
おのほおのほおのほおのほ



皇國

問頼朝和歌十西行の昔不知
人成之在俗を左兵衛尉義清
藤原秀郷後保延六月十音崇家壇



百人一首之内 古今

寂蓮法師

おきき
おのほ
おのほ
おのほ
おのほ
おのほ
おのほ
おのほ

おのほおのほおのほおのほ
おのほおのほおのほおのほ
おのほおのほおのほおのほ
おのほおのほおのほおのほ
おのほおのほおのほおのほ
おのほおのほおのほおのほ
おのほおのほおのほおのほ
おのほおのほおのほおのほ



皇國

百人一首之内 十載

皇太后院別駕

接波右左衛門尉の藤原公家孫
名存兼とて今御成り老
院の御徳院の后とて世
をうらまへたまふ一載の
お終ふは御成りさる
ものなを別駕に在る

難波にれ

七声の

かたつ後の

こねゆか

おきか

はやく

おきか

おきか



皇太后

百人一首之内 新古

太子内親王

百首の内の一首に
後白河院の御成り
五十年の御成り
お終ふは御成り
ものなを別駕に在る

玉の清よ

おきか

おきか

おきか

おきか

おきか

おきか



皇太子



百人一首之内
新勅
羈旅

徳念右大臣

父の権をたすむべし
御心持の御心持
御心持の御心持
御心持の御心持
御心持の御心持
御心持の御心持
御心持の御心持
御心持の御心持
御心持の御心持
御心持の御心持

世の中を
諸より
小みれ
郷手
かあ

〆 〆 〆



百人一首之内
十載
一傳院

昔を奉りし心を
帝の御心持を
頼聖の御心持を
御心持の御心持
御心持の御心持
御心持の御心持
御心持の御心持
御心持の御心持
御心持の御心持
御心持の御心持

かきまは
かきまは
かきまは
かきまは
かきまは
かきまは
かきまは
かきまは
かきまは
かきまは

〆 〆 〆

四十六

百人一首之内

初物

入道

花も鳥も春とあり
表れぬ身もかごとく
世にふれ公をうさる
初物入一書

花の巻

ゆたかき

ありゆきの

うさぎ

かりけり



百人一首之内

初物

梅雨

梅雨の巻
雨の降るは
春のついでに
天の恵み
初物

こゝろ

浦

ゆき

のほの

あま



豊国

